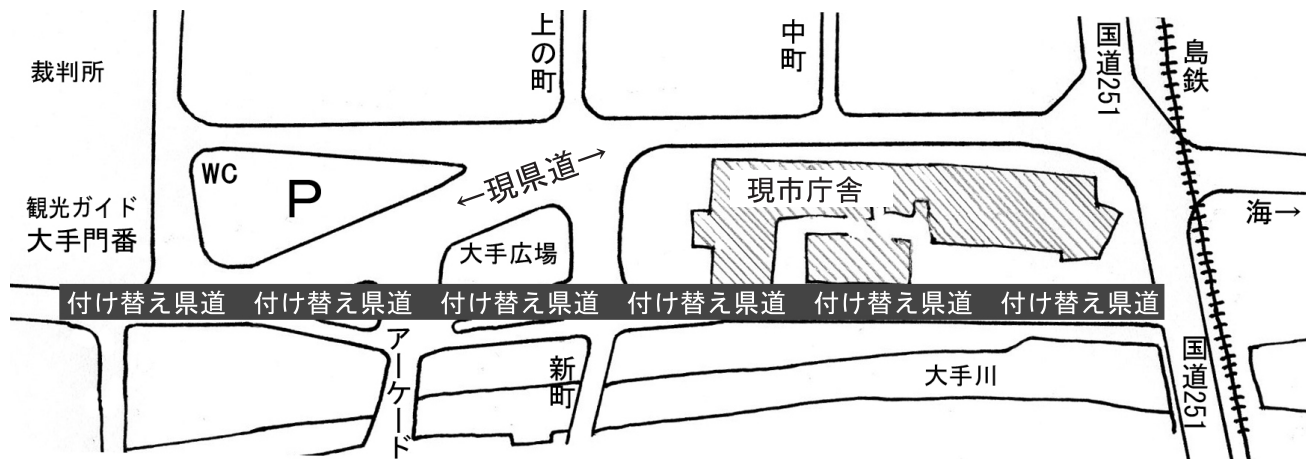


大手広場 整備の提案

県道付け替えと市庁舎建て替え



■使い勝手の悪い大手広場と市役所

かつて大手広場は道とそうでない所の区別もない「広場」で、春には初市でにぎわっていました。

車がだんだん増えて、成り行きで車道（県道）が広場を斜めに分断し、広場機能は失われました。

車はさらに増えて、S字カーブで交通事故も頻発するようになりました。

■県道付け替えは過去にも……

一昨年来、松坂は県道を現大手門番から直進させ国道につなげてはどうか（上図参照）。そうすれば大手広場が有効に使えるようになる。と提案しています。しかしこれは何も松坂の発案でもない。普賢岳噴火後の1994年島原市の中心街の整備案の中にも提案されていたのです。直進県道が、庁舎南面をかすめるので庁舎建て替えもセットになる。

■庁舎建て替えはしない！？

当時（阪神大震災やアネハ事件の前で）耐震性は今ほど問題でなかった。災害復興を第一義としていた島原市は、庁舎は建て替えず我慢して使い、予算は復興に回す。として庁舎建て替えしない前提で、大手広場は少しばかり県道を拡幅して、右折レーンや歩道を整備したのでした。

■方針変更：庁舎建て替えます。

島原有明の合併に伴い、合併特例債という有利な借金が出来る。耐震性に問題がある。ということで、その後庁舎建て替えに大きく舵を切りなおしたのでした。

市民も交えた庁舎建設懇話会も、議会の庁舎建設特別委員会も「建て替えが望ましい。場所は現在地及びその周辺」との結論を出している。

当局は40億円ほどを建て替えに見込んでいるが、この機会に県道を付け替えてもプラス7000万円ほどの出費ですむ。（40億円ももっと抑えることが出来る。）

■やらない理由を探す市当局

付け替えは出来るのか？と実現可能性を聞けば、県道だから都市計画変更など無理であるという。県に確認すれば、費用を県が出せないだけで、島原市がやる気なら問題はないという。（島原市は平気でウソをつく。）

再度市に確認すれば、海へ向かう道も整備完了しており、連続性が切れることになり再度鉄道を架け替えるのは困難とか、市役所を現在地より山側に張り出せば、上の町と新町の連続性に不都合など、思いつきの嘘八百。

上の町も新町も大手広場に刺さる一方通行で、元々連続性はない。要は仕事を増やしたくないというだけのこと。